

学力向上市町村教育委員会プラン研究事業

「主体的に問題解決に取り組む子どもの育成を目指して」

朝日町立さみさと小学校 教諭 能登 千春

「うさぎ追いし かの山 小ぶなつりし かの川」

ホールに集まったお年寄りと一緒に、子どもたちがゆっくりと手話を付けて歌う「ふるさと」。次は、姿勢を低くして顔を見合わせながら「おちゃらかほい」と手遊び歌。

お年寄りと遊びを通してふれあい、笑顔を届けようと訪問した老人施設での一場面です。訪問を終えた4年生は、お年寄りの笑顔や反応、施設の職員の方からいただいたたくさんのほめ言葉に活動の成果を感じながら学校に戻りました。



本校は、平成21年度から2年間、総合的な学習の時間を中心として研修に取り組んできました。今年度は、学力向上実践研究拠点校として「仲間とともに学び合いながら、主体的に問題解決に取り組む子どもの育成」を研究主題として取り組んでいます。「学び合い」と「体験」のキーワードをふまえ、子ども同士の学び合いがより深まり、豊かな表現力につながるような学習展開に重点を置いて研究を進めてきました。

3年生の国語科の実践「食べ物のひみつ辞典を作ろう」では、総合的な学習の時間での体験を生かし、自分の関心のある食べ物のひみつについて調べたことを説明文に書く活動に取り組みました。辞典作りや発表会に向けて、目的意識をもって意欲的に活動することができました。グループ学習や話し合い活動を通して、分かりやすい説明文の書き方を学ぶとともに、文章を書く際の基礎的事項についても理解を深めることができました。

4年生の総合的な学習の時間の実践「心をつなごうーぼく・わたしの思いとどけ隊ー」では、校区・学校・家庭でのバリアフリー探し、点字や手話、車椅子、老人施設訪問などの体験を通して自分の思いを届けようとする学習活動を展開しました。子どもたちは、「どんな思いをとどけたいのか」についてこれまでの活動や体験で自分が考えたことについて話し合い、仲間の活動と比べながら自分自身を振り返り、活動への意欲を高めました。創作劇や手遊び歌、手話付き合唱など様々な表現方法に取り組むこともできました。

これまでの実践の結果、仲間とのかかわりを通して、自分の活動や考えを見直したり、より発展的に自分の考えをまとめたりして、ともに学び合い高め合う姿が見られるようになってきました。さらに、各教科で習得した言語能力や資料活用能力などが総合的な学習の時間に活かされ、主体的で粘り強い問題解決につながりました。

“不思議いっぱい”に取り組むことのできる各教科での取り組みと、子ども自身が成長できたという自信をもつことができる総合的な学習の時間との関連を図った学習展開について今後も研修を進めていきたいと考えています。